

## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鋳工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)。

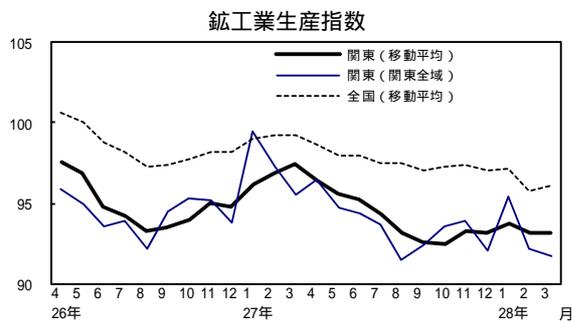
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成28年2月)	今回(平成28年5月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの緩やかな回復	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	
個人消費	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、足踏み	
住宅建設	減少	横ばい	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鋳工業生産は弱含んでいる。(関東全域)

輸送機械は海外向けの駆動伝導・操縦装置部品や国内向けの懸架制動装置部品等を中心に増加した。電気機械は電力変換装置等を中心に減少した。情報通信機械はネットワーク接続機器、端末装置等を中心に減少した。生産用機械は海外向けの半導体製造装置や数値制御ロボット等を中心に増加した。



- (備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。  
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

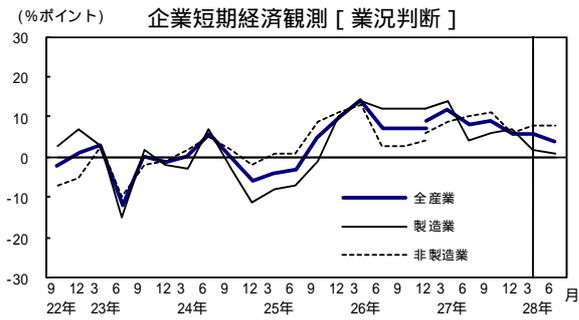
### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10~12 月期	1~3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	18.6	1.2	1.5	8.0	3.6	4.0
化学	15.1	0.2	-	2.3	0.6	-
電気機械	9.3	2.7	2.7	2.5	6.1	1.7
情報通信機械	6.2	6.0	1.0	3.3	1.8	8.5
生産用機械	6.1	2.2	1.2	8.6	11.9	4.5
鋳工業	100.0	0.6	0.0	3.7	3.4	0.5

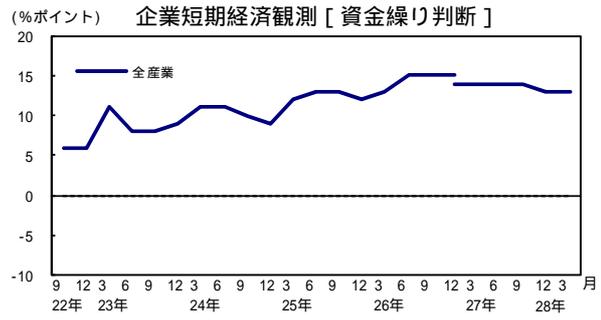
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1~3月期、3月は速報値。化学は速報値では公表されていない。

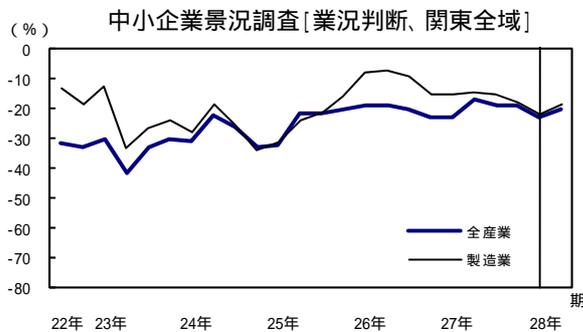
(2) 業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。  
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年6月は予測。  
26年12月は新・旧基準を併記。  
日本銀行横浜支店管内。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月は新・旧基準を併記。  
日本銀行横浜支店管内。

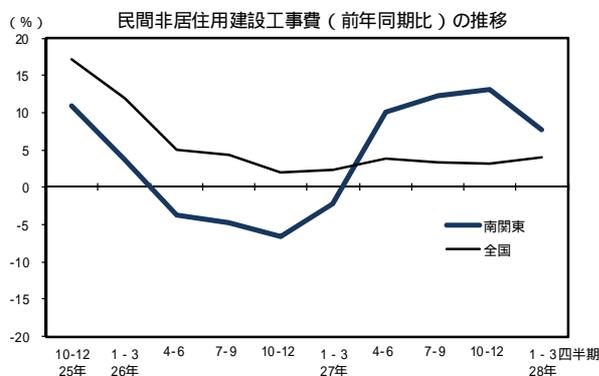


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「年度初めで大型案件は少ないが、前年度に続き忙しい。ただし、価格が安く利益につながらないのが現状である(金属製品製造業)」等の回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	27年度実績見込み	28年度計画
全産業	11.1 ( 4.4 )	6.4
製造業	13.3 ( 4.0 )	8.9
非製造業	7.9 ( 5.1 )	2.3

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。  
日本銀行横浜支店管内。

(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.4%増、2月は同0.3%減、3月は同3.0%増となった。

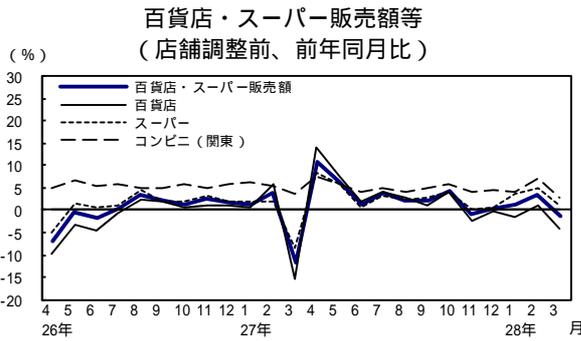
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は暖冬の影響で衣料品の動きが鈍かったこと等から、前年を下回った。2月は化粧品等インバウンド需要でその他の商品の動きが良かったこと等から、前年を上回った。3月は、気温の変動が激しく衣料品や身の回り品の動きが鈍かったこと等から、前年を下回った。スーパーは、飲食料品等に動きがみられたことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[家計動向関連 (現状)]

南関東地域の家計動向関連DIは、44.2となり前月より2.4ポイント上昇した。

「4月になった途端に来客数も多く、エアコン取り付けや電気工事関係の仕事が入り、忙しい(一般小売店[家電])」等「良くなっている」とする回答が増加した。

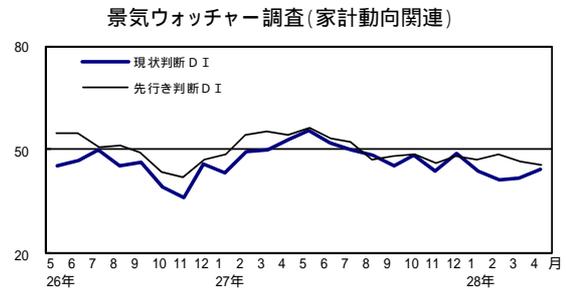
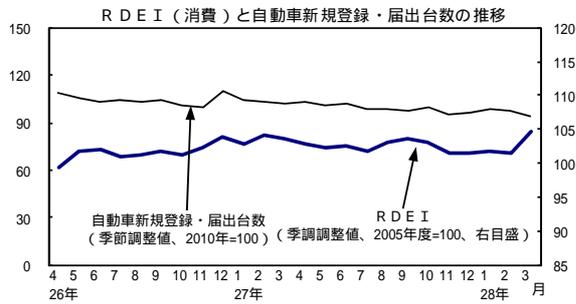


	28年1-3月	28年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.8	0.4	0.3	3.0
百貨店・スーパー(*2)	1.0	1.4	3.2	1.3
百貨店(*2)	1.7	1.6	0.9	4.0
スーパー(*2)	3.2	3.8	5.1	0.9
コンビニ(*2)	4.5	4.0	7.0	2.7
乗用車(*3)	6.3	5.0	5.4	7.8
(季節調整値)(*3)	0.5	2.1	1.2	3.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

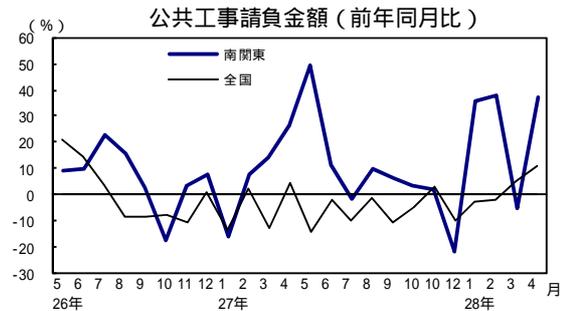
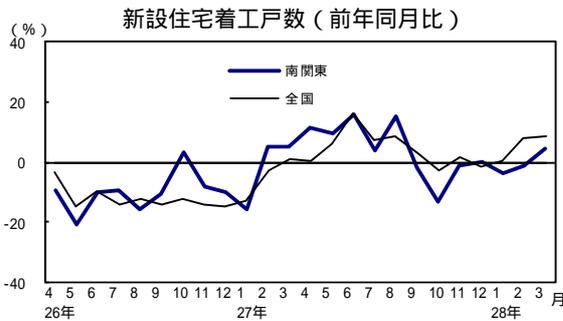
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)、コンビニは関東全域

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は横ばい。  
全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度を上回っている。



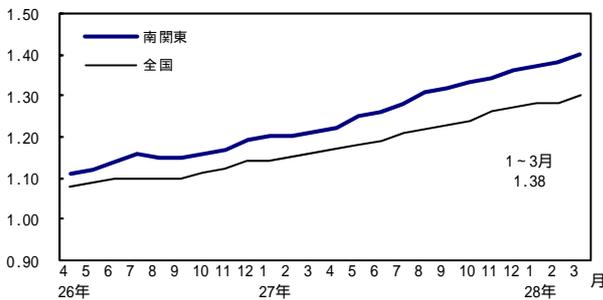
### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

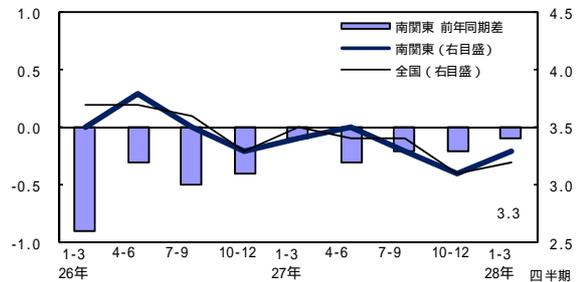
有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

(倍) 有効求人倍率(季節調整済)



(ポイント) 完全失業率(原数値) (%)



景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[雇用関連(現状)]

「新卒、中途採用共に今期計画が確定し、活発な採用活動が続いている(民間職業紹介機関)」等の回答がみられた。

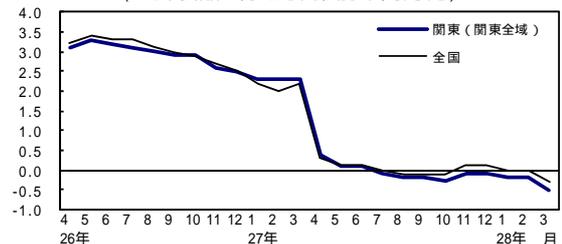
(2) 企業倒産は、件数がおおむね横ばいとなったものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年4-6月	7-9月	10-12月	28年1-3月	28年4月
倒産件数	748	674	773	693	230
(前年比)	14.6	19.6	14.3	0.6	8.4
負債総額	1,448	2,721	4,220	1,464	331
(前年比)	30.4	110.6	118.7	29.5	38.6

(%) 消費者物価指数  
(生鮮食品を除く総合、前年同月比)



景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[合計(景気判断において熊本地震に言及したもの)]

<現状>

・熊本地震の影響による取消しが相次ぎ、今月の目標値から大きく下落している(旅行代理店)。

<先行き>

・プラスに働く材料がない。熊本地震の影響も含め、心理的にもマイナス要素が大きいと感じる(通信会社)。

景気ウォッチャー調査

(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

